

# I. 調査要領

## 1. 調査時点及び調査対象期間

- (1)調査時点 : 平成19年4月1日  
(2)調査対象期間 : 平成19年1月～3月期の実績および平成19年4月～6月期の見通しについて調査した。

## 2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各30社、計150社を抽出し郵送により調査した。

## 3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回答率
商業+食品業部会	30社	17社	56.7%
水産業部会	30社	24社	80.0%
機械工業部会	30社	18社	60.0%
建設業部会	30社	22社	73.3%
観光・サービス業+諸業部会	30社	26社	86.7%
合計	150社	107件	71.3%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

## Ⅱ. 概 況

－業況は依然マイナス水準で推移ながらも一部来期に期待－

### 1. 全体の動き(業況)

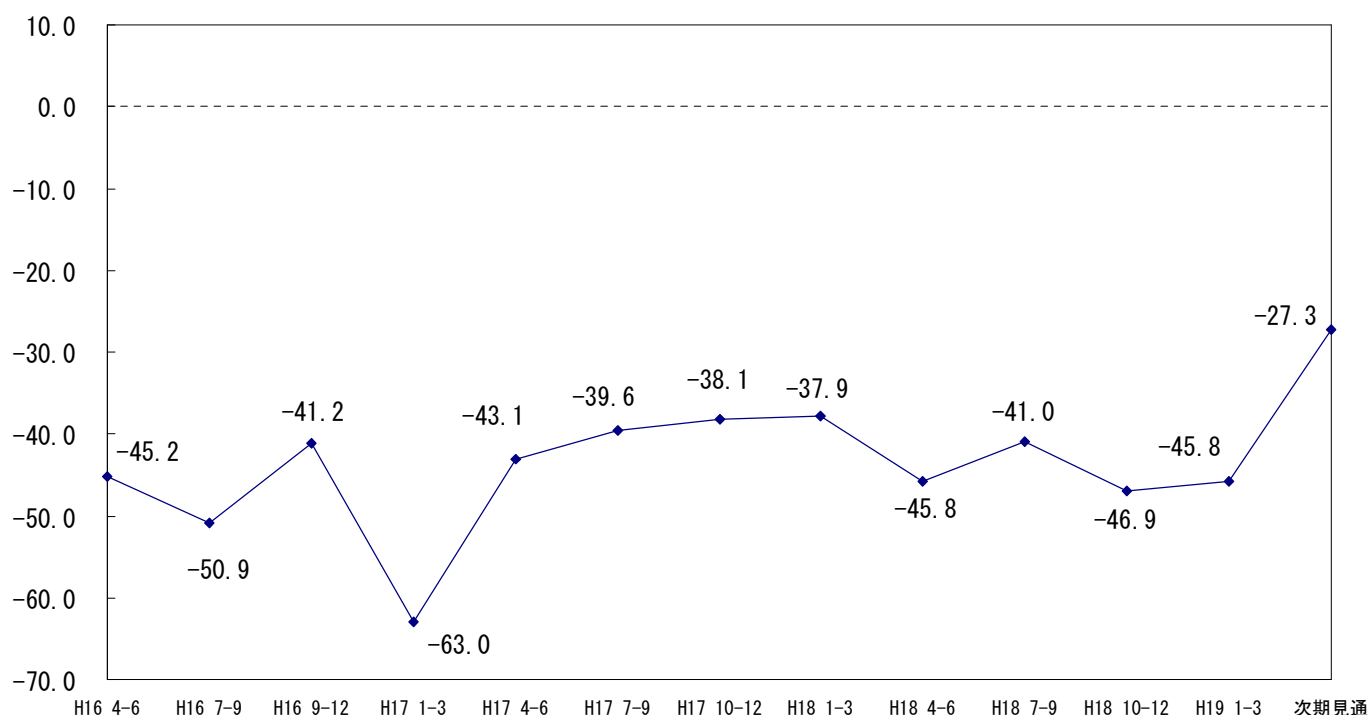
四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成19年1月～3月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では△45.8**と前回調査時の△46.9とほぼ横ばいの状況となりました。H17年度にマイナスながらもポイントを回復させた業況判断指数ですが、本年度は一年を通して低迷した状況は改善されず、市内経済を取り巻く経営環境は厳しい状況が続いています。特に流水観光シーズンに期待が集まった観光・サービス業部会からは全部会の中で最も厳しいとの声が多く寄せられ、乗船者数が前年を上回った**ガリンコ号などの経済効果が市内観光関連業種やサービス業界まで波及されない**、との声が多く、今後の対策が必要と思われれます。

部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業 [前期△52.6→今期△35.3]、水産業 [前期△41.7→今期△45.8]、機械工業 [前期△52.9→今期△38.9]、建設業 [前期△35.0→今期△36.4]、観光・サービス・諸業 [前期△55.6→今期△65.4] となりました。業況は依然マイナス水準で推移しているものの、**商業・食品業と機械工業**においてはマイナスながらも10ポイントを上回る**改善の動き**がみられ、今後の期待されます。

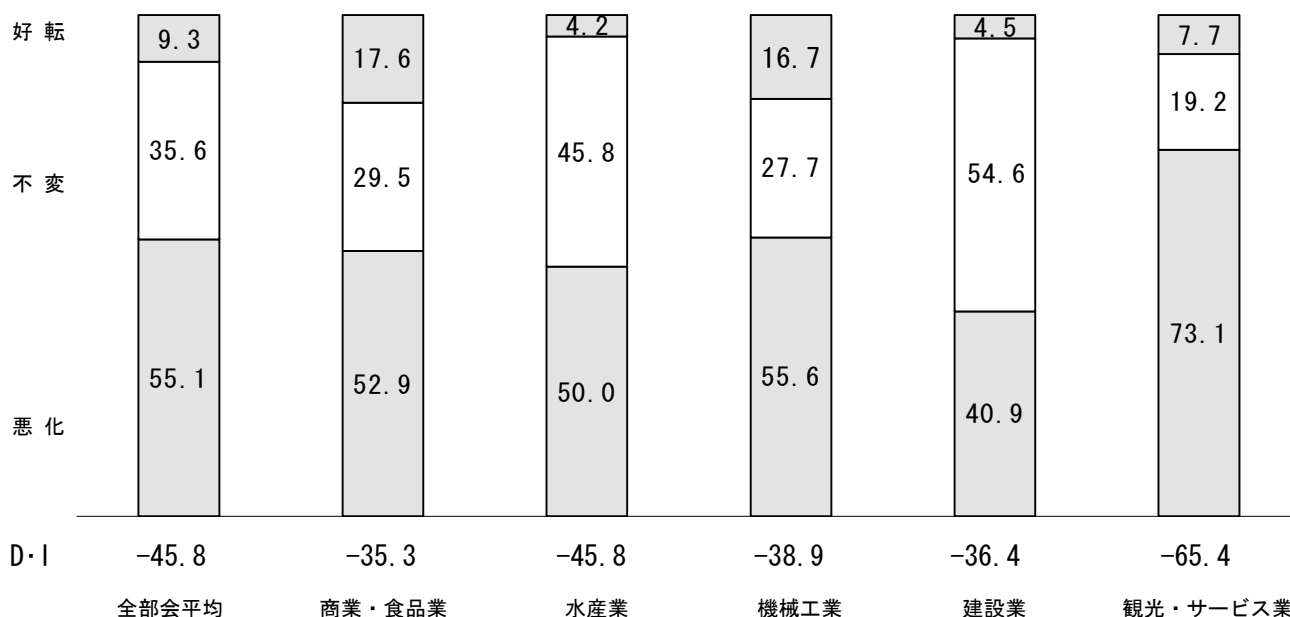
**来期(平成19年4月～6月)**については、今期と比べて**業況判断DIが18.5ポイント改善**するとの見通しであり、一部に見られる今期の改善傾向が継続することが期待されます。

### 業 況 推 移 (全業種平均D・I)

前年同期比



## 今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、**民間需要の停滞**や**受注金額の低下**の中、**材料・仕入単価の上昇による負担増**を訴え、諸経費の削減や設備投資の見送りになどによる対応に苦慮しているとの声が多く寄せられています。

また、金融機関の貸出姿勢は「厳しい」という声が増えている中において借入金の金利は一層上昇し、**資金調達を不安視**する声も寄せられています。

このような中、中心市街地の再興を望む声が多く寄せられているほか、水産加工では2次・3次加工への積極的な取り組みの必要性、また高速輸送体制の充実など、競争力強化の必要性が求められています。

### ■ 部会別の動向

【商業・食品業部会】 〔業況判断DI値（前年同期比）△35.3（前期△52.6、来期見通し△18.8）〕

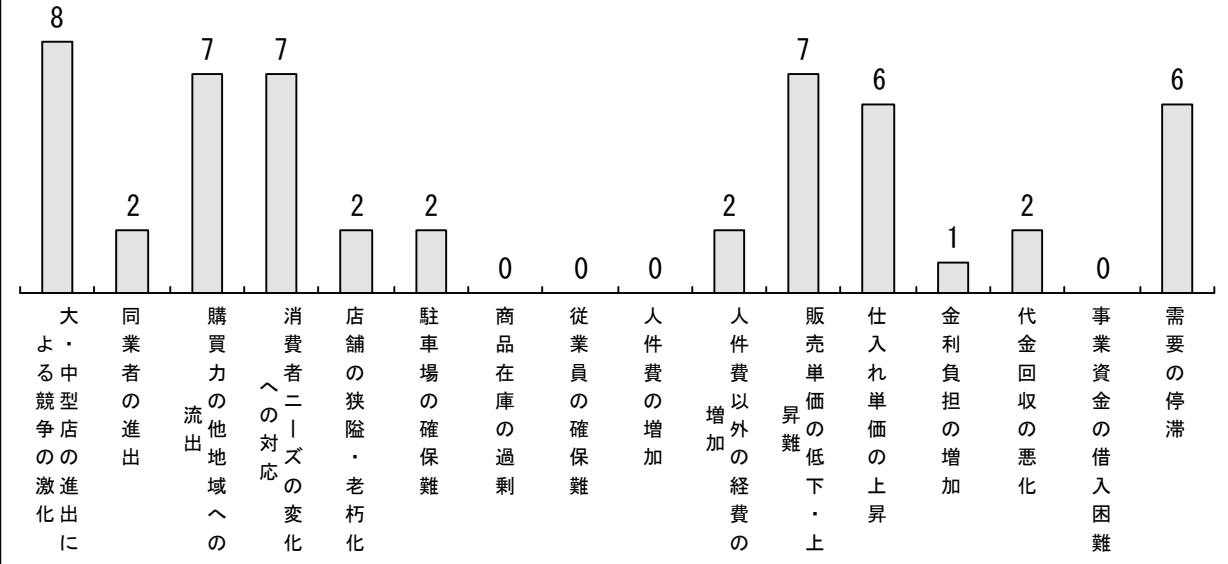
業況DI値（前年同期比）は、6期連続で大幅なマイナス値となり、依然厳しい状況で推移しております。冬物の動きが鈍く苦戦が見られたほか、人口の減少や長引く不況による購買力の低下を訴える声が多く寄せられています。しかしながら前期比で17.3ポイント回復したほか、来期の見通しはさらに16.5ポイント回復するとの声が寄せられており、雪解けとともに活発な動きが期待されます。

経営上の問題点としては「大・中型店との競争の激化」「購買力の他地域への流出」に加え、「消費者ニーズの変化への対応」を訴える声が多く寄せられています。

### 《業界の問題点等》

- ・既存の商店街は壊滅するのではないかと。今年になって2店舗閉店（予定含む）。生協等や大型店を核店舗として誘致してはどうか。または、2～7丁目の商店街を集約してはどうか。（小売）
- ・中心市街地の物販店の顧客は減少しているが、店舗の至近距離に駐車場を有する企業はそれなりの客層の来客数が期待できるようである。物販業に対しサービス（食堂・ファミレス・美容室・ファーストフード店）等は健闘しているように見える。（小売）
- ・①ネット・通販等により店頭買の減少！ ②商店街の閉店時間が早い！（18:30～19:00で閉まっている） ③日曜日が閉まっている！が商店街としての問題点。（小売）
- ・人口減少や高齢化に伴う購買力の低下による業況悪化。（小売）

経営上の問題点（商業・サービス業部会）



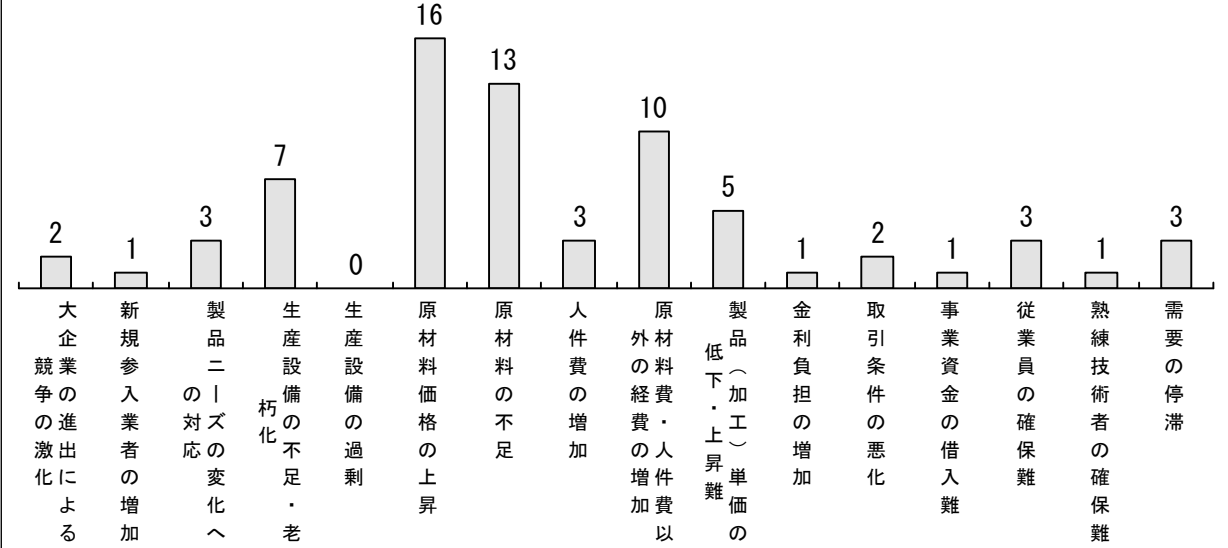
【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△45.8（前期△41.7、来期見通し△20.8）〕

業況判断DI値（前年同期比）は△45.8と2期連続で大幅なマイナス値となり、厳しい状況で推移しております。ホタテなどの原料不足を訴える声や高速道路網等の輸送体制の不便さを訴える声が寄せられています。しかしながら、来期の見通しは今期と比較し25.0ポイント大幅に回復するとの声が寄せられていることから、本市経済の牽引役として期待されるほか、二・三次加工への積極的な取り組みが期待されます。

《業界の問題点等》

- ・交通網の不便さ、紋別の人口減。（水産加工）
- ・地元での売上減少に歯止めがかからず毎期ダウン。このままでは見通しが立たず、計画策定に苦労しています。（水産加工）
- ・業界の主原料の帆立の減産により全体的な仕事の減少となり、それを補う為の仕事買的な動きが出てきて、採算割れの仕事が多くなる傾向にある。またそれらの動きにより、魚価の高値傾向が強くならねばと思っている。良い面としては、二・三次加工に対する必要性や重要性が高まってきている。（団体）
- ・平成18年度の当地の景気動向を見て分かる通り、御多分にもれず当社も悪化から脱せず苦慮しています。中央では景気が良いところもあるそうですが、北海道は昔から1、2年遅れて景気が戻ると言われておりますので、もう少し様子を見て今後の状況を判断する次第です。（水産加工）

経営上の問題点（水産業部会）

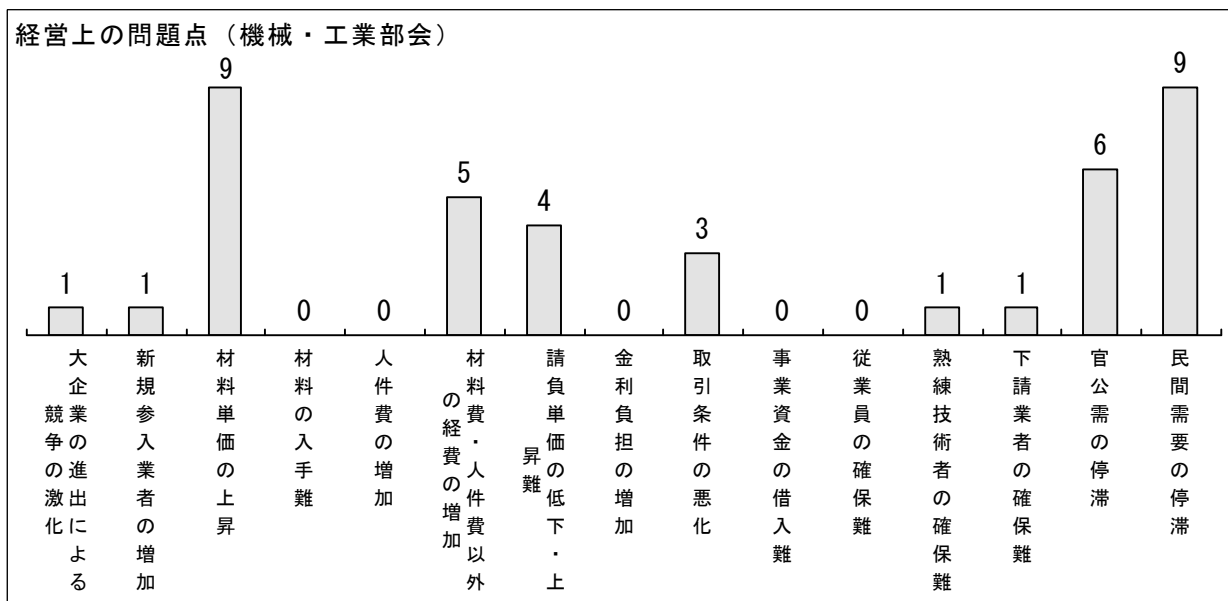


**【機械・工業部会】** [業況判断DI値（前年同期比）△38.9（前期△52.9、来期見通し△11.1）]

前期大幅に悪化した業況判断DI値（前年同期比）ですが、今期は前期比で14.0ポイント回復しました。また、来期の見通しにおいても、売上DIが△5.6・資金繰りDIがプラス5.6へと回復すると期待されております。経営上の問題点として、材料費の高騰を訴える声が多く寄せられている他、民間需要の停滞・人口の減少等による経済規模の縮小を懸念する声が寄せられています。

**《業界の問題点等》**

- ・仕事の減少、単価の問題などにより設備投資出来ず。（重機）
- ・冬期間休業状態。（製材）
- ・少子化・高齢化等により、長期展望が見通し悪い。（車両販売）
- ・乳製品の需要減と生産物の価格の下落で酪農家の投資ストップ。（農器具販売）



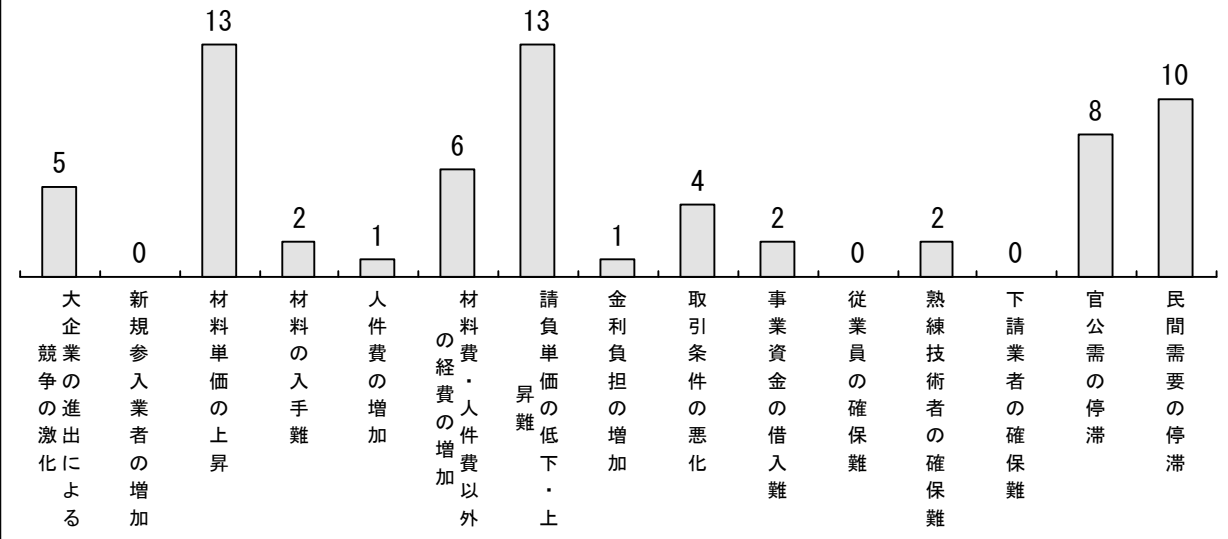
**【建設業部会】** [業況判断DI値（前年同期比）△36.4（前期△35.0、来期見通し△31.8）]

業況判断DI値（前年同期比）は僅かながら2期連続で悪化し、資金繰りDIも△36.4と厳しい状況が続いています。全体的な工事量が少ない中において価格競争も激しくなっており、来期の見通しも業況DI△31.8、資金繰りDI△36.4と、非常に厳しいものとなっています。また、金融機関の貸出姿勢も△20.0と最も厳しい見方となっております。

**《業界の問題点等》**

- ・民間の建物解体工事など採算ライン限界で見積もりしても、同業者に何度がダンピング価格で受注を横取りされる。廃棄物の適正な処理が懸念される。（土木）
- ・資材の値上がりで利幅がうすい事。（電気工事）

経営上の問題点（建設業部会）



【観光・サービス部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△65.4（前期△55.6、来期見通し△46.2）〕

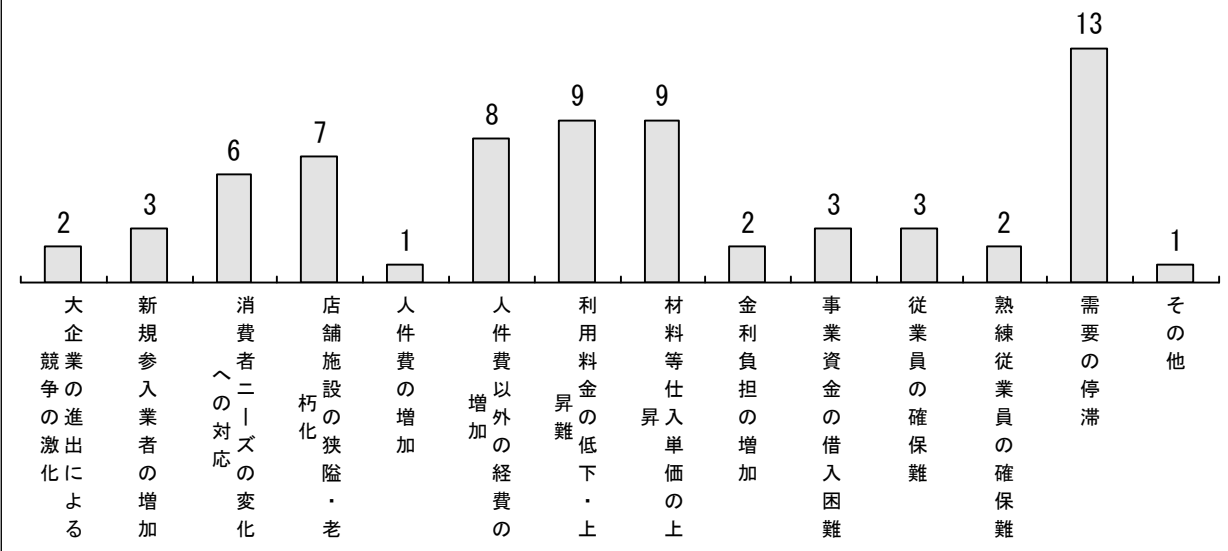
業況判断DI値（前年同期比）は小幅ながら3期ぶりに悪化しました。とくに採算DIは△73.1と全部会の中で最も悪化しており厳しい状況がうかがえます。ガリンコ号Ⅱの乗客数は前年を上回ったものの、市内関連業界まで経済効果がなかなか波及してこないという声も聞かれます。

経営上の問題点として、人口減の影響から需要の減少と並んで材料費・諸経費の負担増を訴える声も多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・商店街の衰退。（飲食店）
- ・若者が居ないので活気がなく、業界全体にも元気がない。（飲食店）
- ・人口減少、高齢化による消費市場の減少。（飲食店）
- ・需要の停滞、不景気のご真ん中で焦っても仕方がありません。需要に打つ手はないようです。もう少し頭を冷やして経費節減を図り、上質な従業員を確保して景気回復を祈願し、時を待とうと思います。（運送）
- ・人口減がなんと言っても大きく、土木関連従事者の出稼ぎも拍車を掛けているように思う。（理容）
- ・人口減少（その他）

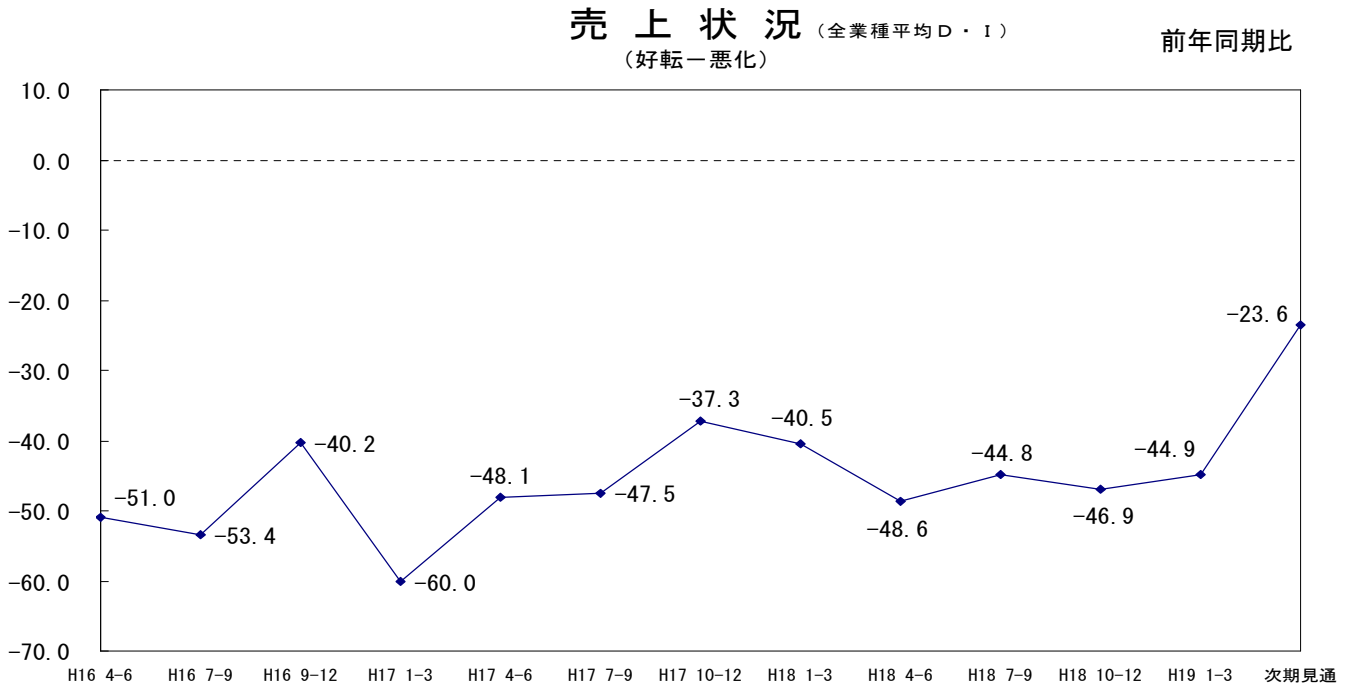
経営上の問題点（観光・サービス業部会）



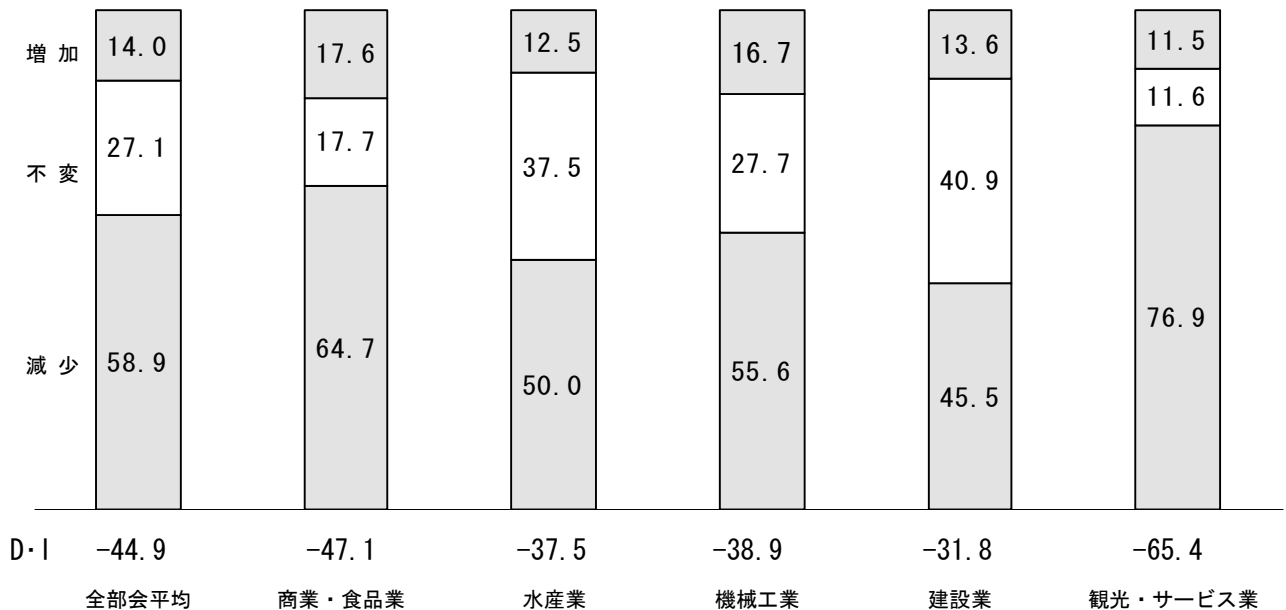
## 2. 今期の動向

### (1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成 18 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の売上高）



### 今期の売上高・生産高（前年同期比）

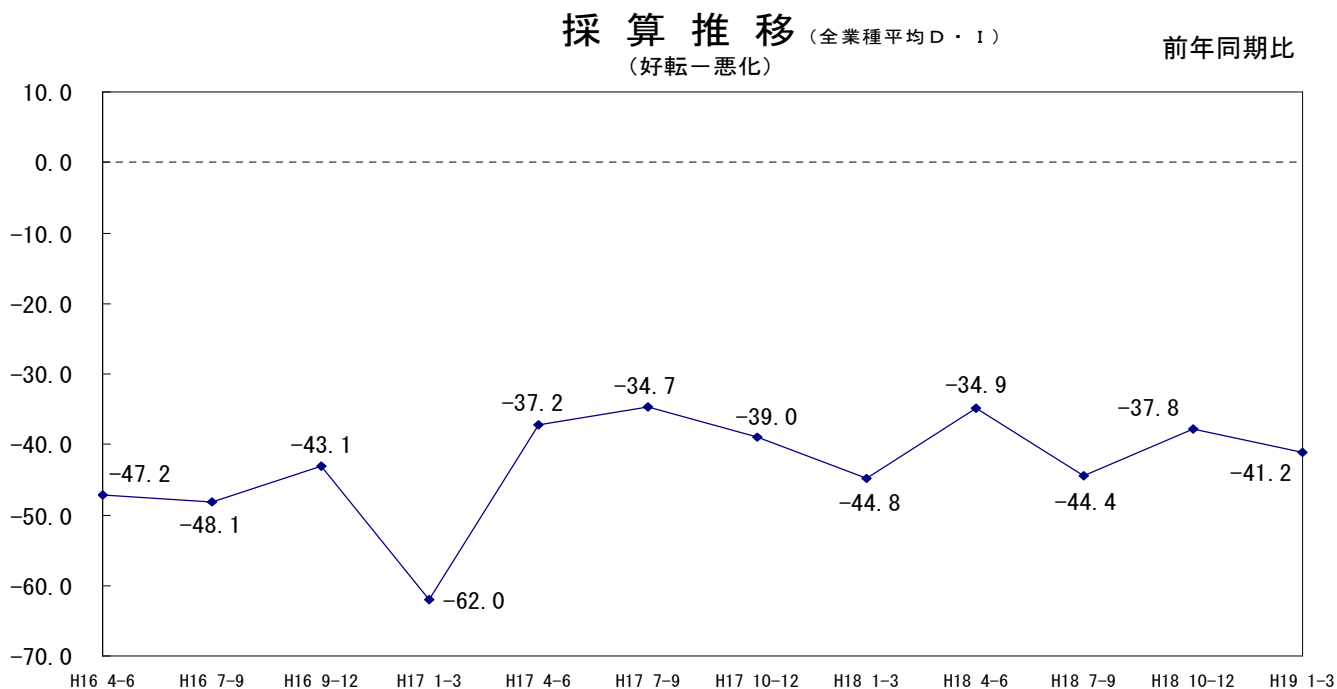


全業種平均で DI 値△44.9〔前回調査時（平成 18 年 10～12 月期△46.9）より 2.0 ポイント改善〕  
来期は 21.3 ポイント大幅に回復の見込み。

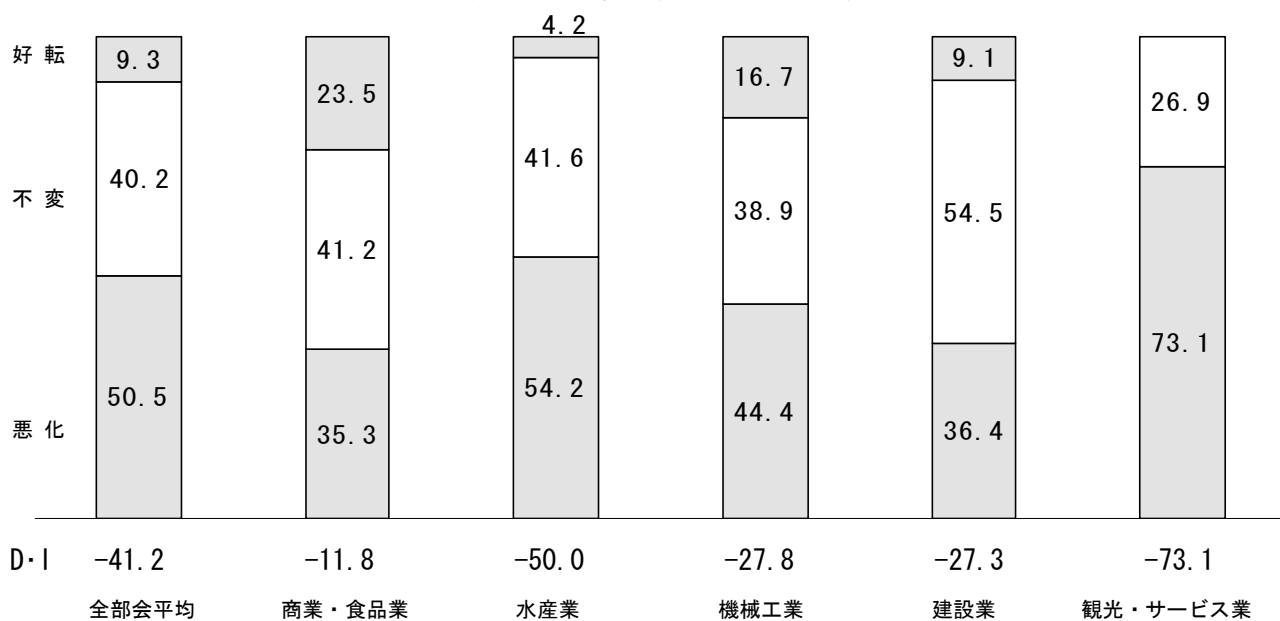
【部会別 DI 値】 商業・食品業〔前回△52.6→△47.1〕、水産業〔前回△29.2→△37.5〕  
機械工業〔前回△70.6→△38.9〕、建設業〔前回△35.0→△31.8〕  
観光・サービス業〔前回△55.6→△65.4〕

(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成 18 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の採算水準）



**今期の採算（前年同期比）**



全業種平均で DI 値△41.2〔前回調査時（平成 18 年 10～12 月期△44.4）より 3.2 ポイント改善〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前回△37.8→△11.8〕、水産業〔前回△47.7→△50.0〕  
 機械工業〔前回△29.4→△27.8〕、建設業〔前回△20.0→△27.3〕  
 観光・サービス業〔前回△38.9→△73.1〕



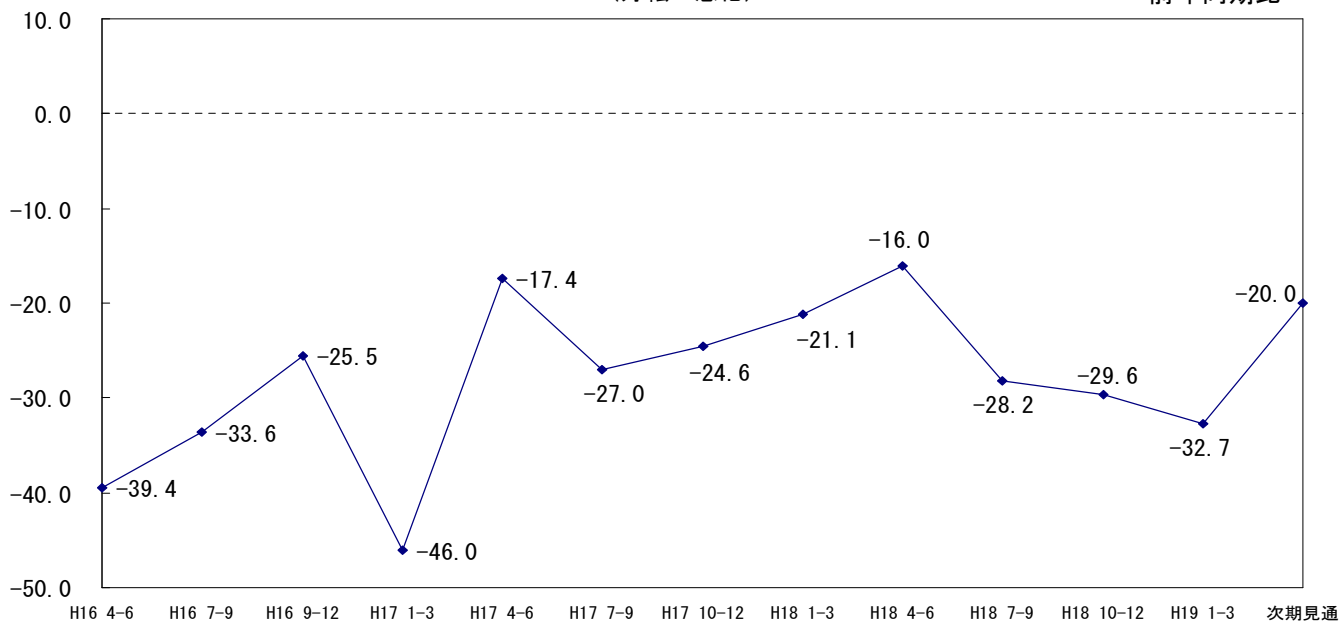
(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成 18 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の資金繰り）

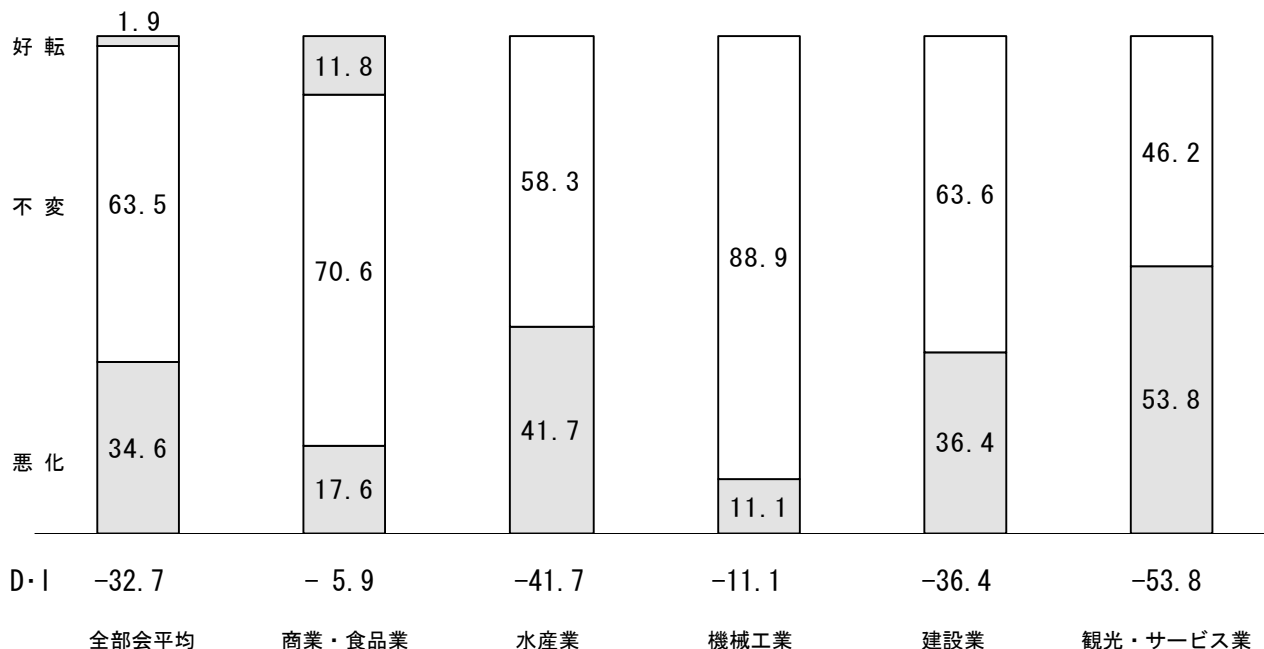
今期の資金繰り（全業種平均 D・I）

（好転－悪化）

前年同期比



今期の資金繰り（前年同期比）



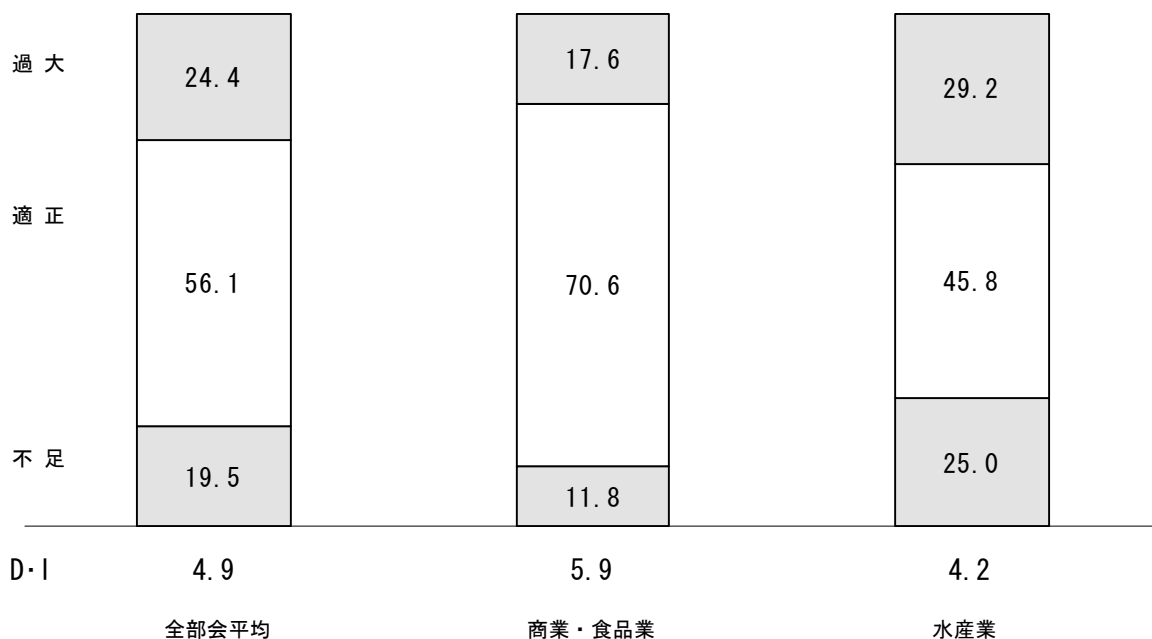
全業種平均で DI 値△32.7〔前回調査時（平成 18 年 10～12 月期△28.2）より 4.5 ポイント悪化〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前回△26.3→△5.9〕、水産業〔前回△33.3→△41.7〕  
 機械工業〔前回△17.6→△11.1〕、建設業〔前回△35.0→△36.4〕  
 観光・サービス業〔前回△33.3→△53.8〕

#### (4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 18 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

#### 今期の在庫水準（前年同期比）

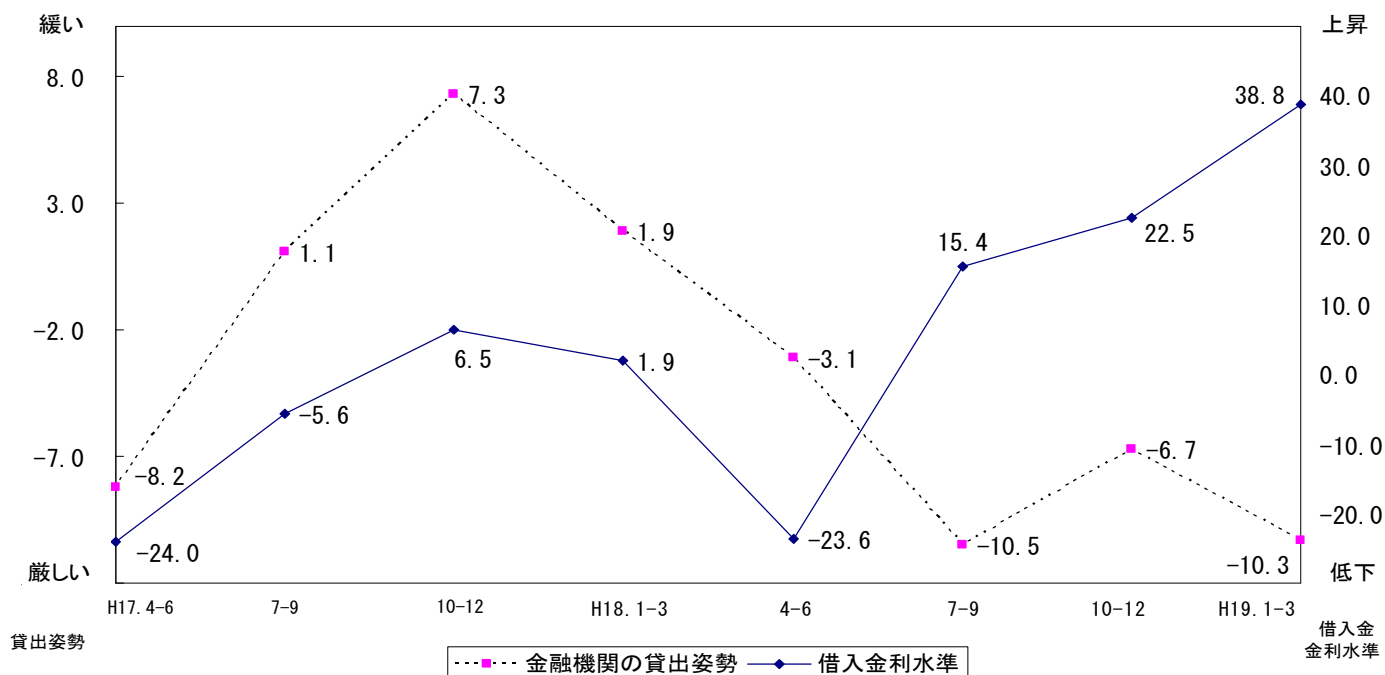


全業種平均で DI 値 4.9 [前回調査時（平成 18 年 10～12 月期 11.7）より 6.8 ポイント改善]

[部会別 DI 値] 商業・食品業 [前回 21.1→5.9]、水産業 [前回 4.2→4.2]

#### (5) 金融機関の貸出姿勢・借入金の金利水準

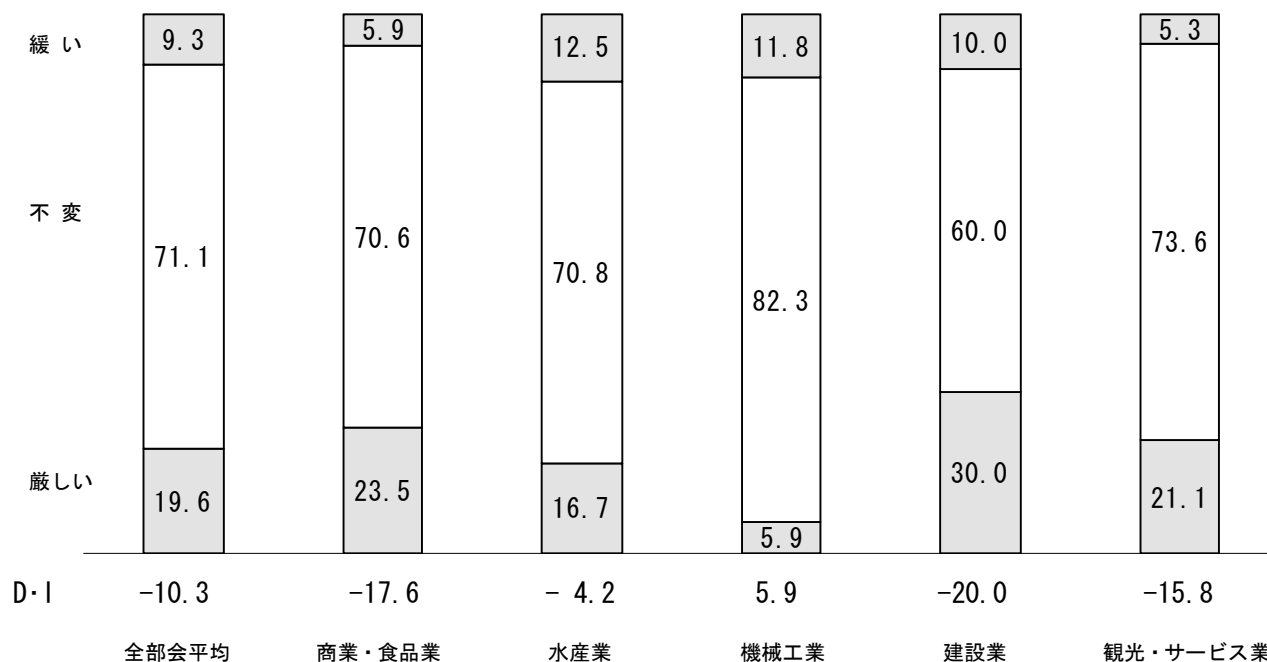
#### 金融機関の貸出姿勢と借入金金利水準の推移



(5)-1 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成 18 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

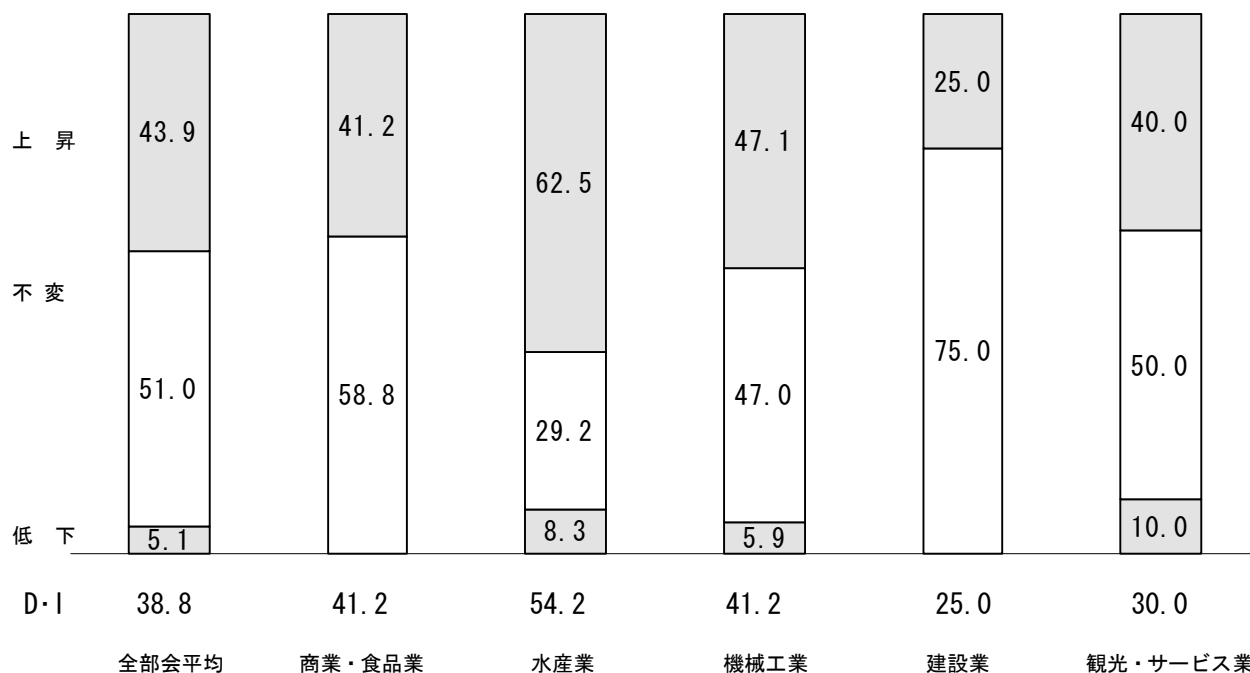
今期の金融機関の貸出姿勢



(5)-2 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】（平成 18 年 1 月～3 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）

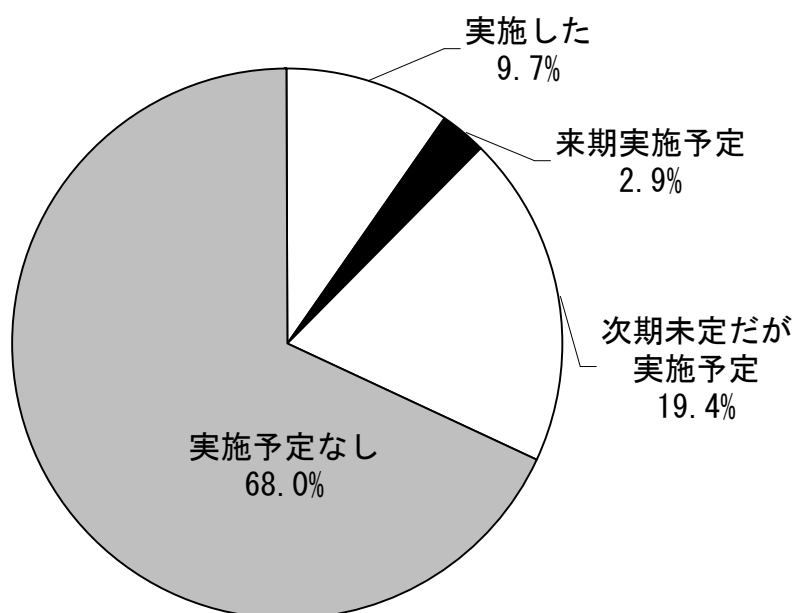
今期の借入金の金利水準



## (6) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

### 設備投資の実施状況

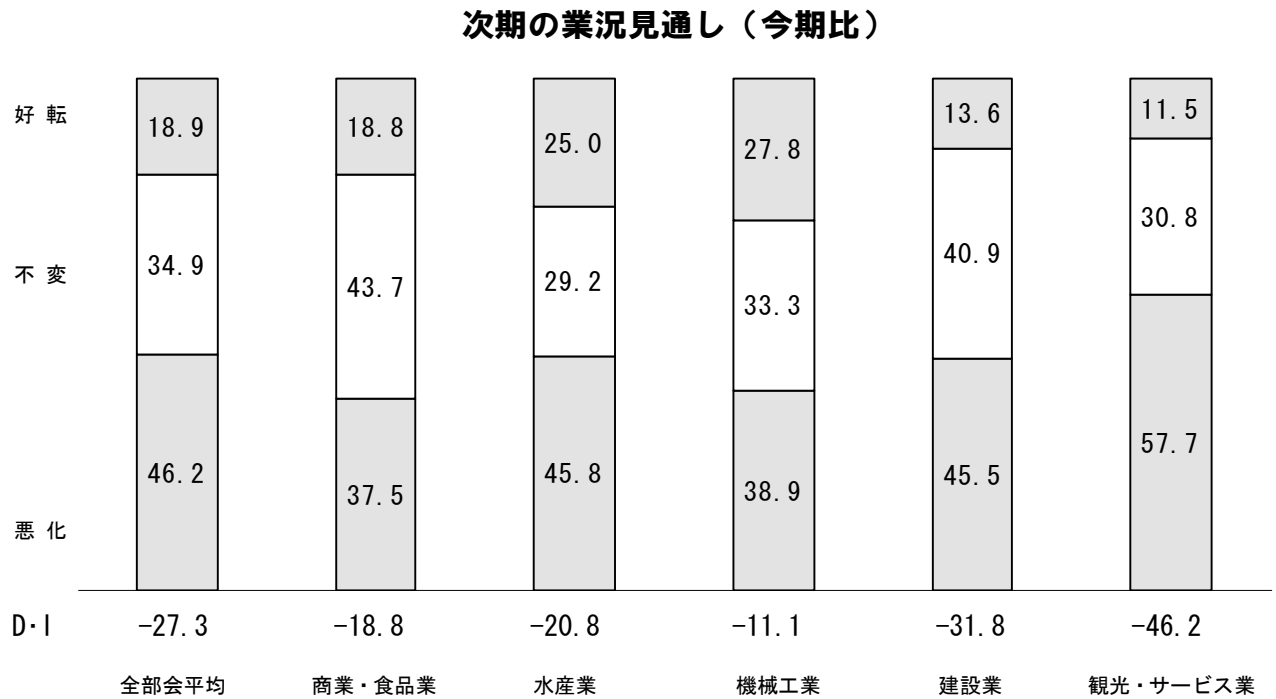


質問事項	回答数	%
1. 実施した	10	9.7%
2. 来期実施予定	3	2.9%
3. 次期未定だが実施予定	20	19.4%
4. 実施予定なし	70	68.0%
合計	103	100.0%

### 3. 来期の見通し

#### (1) 来期の業況

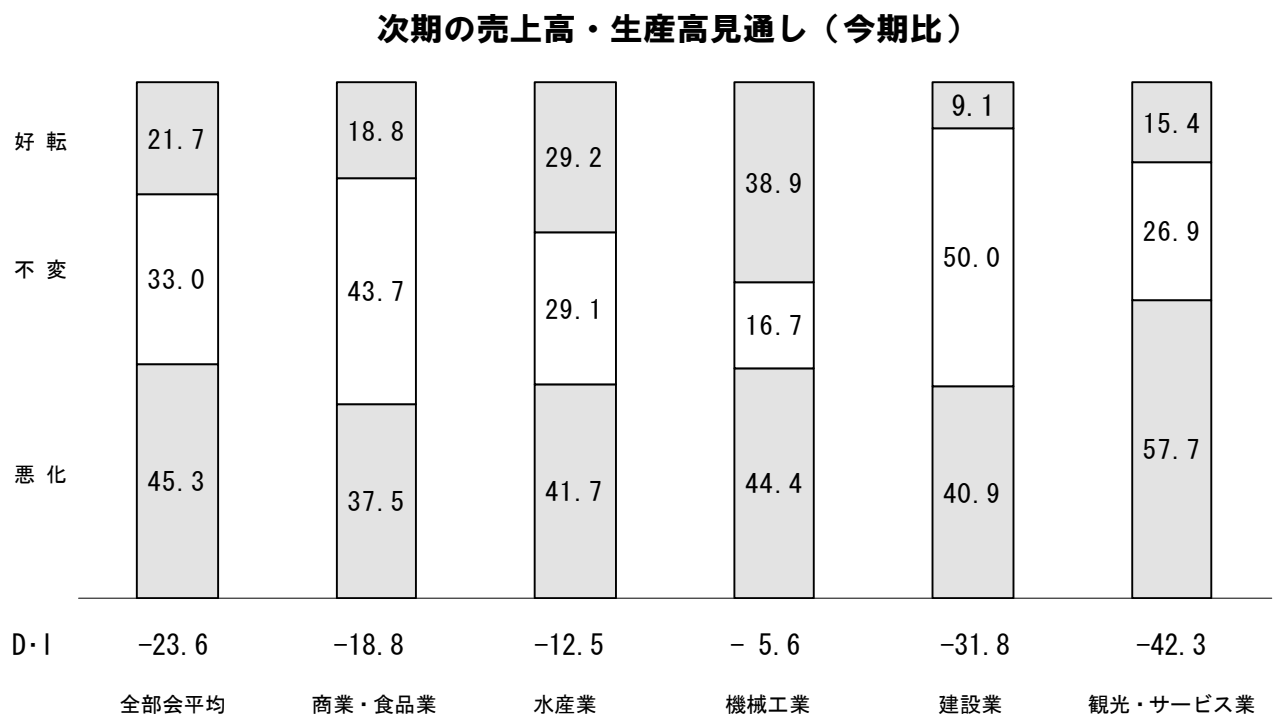
【今期比】（平成 19 年 1 月～3 月期の水準と比較した来期の業況見通し）



全業種平均 DI 値△27.3 [今期の業況（前年同期比△45.8）より 18.5 ポイント回復の見通し]

#### (2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 19 年 1 月～3 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

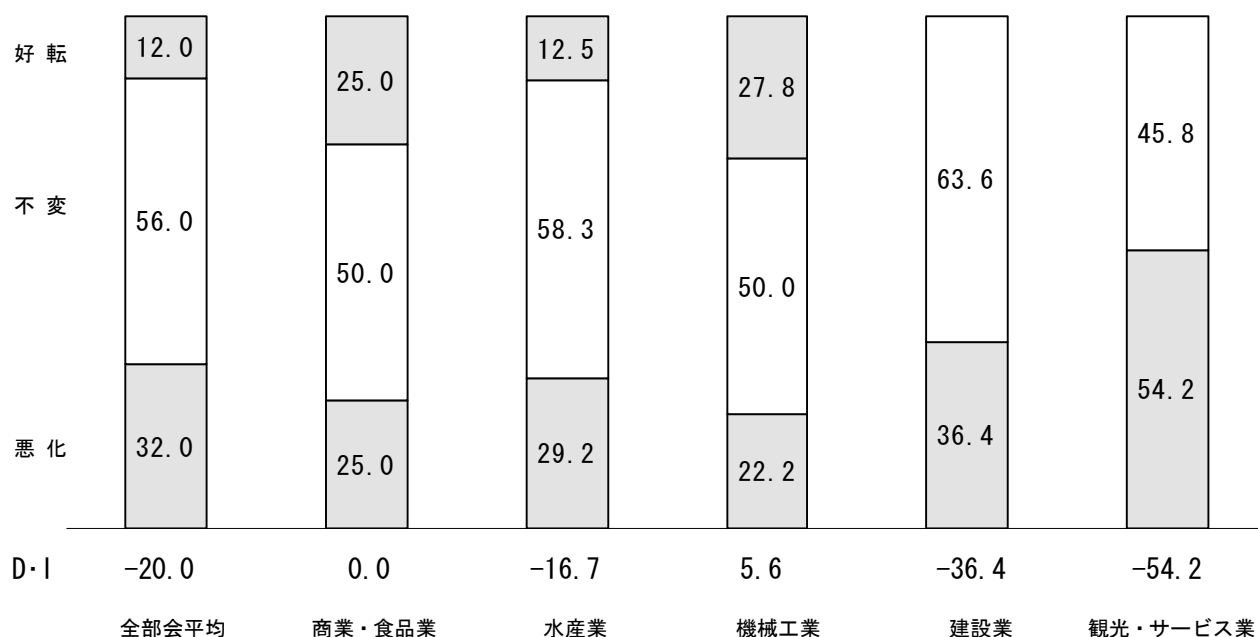


全業種平均 DI 値△23.6 [今期の売上高・生産高（前年同期比△44.9）より 21.3 ポイント回復の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成19年1月～3月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 D・I 値△20.0 [今期の資金繰り（前年同期比△32.7）より 12.7ポイント改善の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	△45.8	△35.3	△45.8	△38.9	△36.4	△65.4
	来期見通し	△27.3	△18.8	△20.8	△11.1	△31.8	△46.2
売上 D・I	今期実績	△44.9	△47.1	△37.5	△38.9	△31.8	△65.4
	来期見通し	△23.6	△18.8	△12.5	△5.6	△31.8	△42.3
在庫 D・I	今期実績	4.9	5.9	4.2	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	△41.2	△11.8	△50.0	△27.8	△27.3	△73.1
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	△32.7	△5.9	△41.7	△11.1	△36.4	△53.8
	来期見通し	△20.0	0.0	△16.7	5.6	△36.4	△54.2
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	△10.3	△17.6	△4.2	5.9	△20.0	△15.8
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	38.8	41.2	54.2	41.2	25.0	30.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—